

The Sold Shoes

Heisuke, an apprentice of a shoemaker, made a pair of shoes for the first time.

A traveler came and bought the shoes.

He was so glad, because the shoes he had made was sold for the first time.



“Sorry, I’ll give you this shoe polish and brush, so please take care of this shoes.”

He said.

The traveler, impressed by his words, left there.

Heisuke ran after him at once.

“Sorry, if the spike of the shoes is lost, please strike this nail there.”

Saying so, he took out a nail and gave it to the traveler.

Soon Heisuke ran after the traveler again.

“Sorry, please take good care of the shoes.”

The traveler at last got angry.

“How troublesome you are! It’s up to me how I wear my shoes.”

“I’m so sorry.”

Heisuke apologized to the traveler and saw him off until he lost sight of hm perfectly.

He did want that shoes to be taken care of forever.

(2023.2.18 Kudo: Original by Niimi Nankichi)

売られていった靴

靴屋の小僧、兵助が、初めて一足の靴を作りました。
すると一人の旅人がやってきて、その靴を買いました。



兵助は、自分の作った靴がはじめて売れたので、うれしくて、うれしくてたまりません。

「もしもし、この靴ずみとブラシをあげますから、その靴を大事にして、可愛がってやってください。」

と、兵助は言いました。

旅人は、めずらしいことを言う小僧だ、と感心して行きました。

しばらくすると兵助は、つかつかと旅人のあとを追っかけていきました。

「もしもし、その靴の裏の釘が抜けたら、この釘をそこに打ってください。」
と、釘をポケットから出してやりました。

しばらくすると、また兵助は、思い出したように、旅人のあとを追っかけて行きました。

「もしもし、その靴、大事に履いてやってください。」

旅人はとうとう怒りだしてしまいました。

「うるさい小僧だね、この靴をどんなふうにも履こうと私の勝手だ。」

兵助は、

「ごめんなさい。」

とあやまりました。

そして、旅人の姿が見えなくなるまで、じっと見送っていました。

兵助は、あの靴がいつまでも可愛がられてくれればよい、と思いました。